

令和 5 年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 6 年 1 月 23 日

江別市立対雁小学校

1 本年度の重点教育目標

自ら学び 高め合い ねばり強い子ども育成
 ～思考・判断、自己指導能力を重点として～

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針の重点	1 教職員相互の信頼と協働による学校経営の充実	B	年度の重点目標及び育成すべき資質・能力を共有し、全教職員の主体的な参画による機能的な学校運営を推進する。R P D C A サイクルを循環させる。	A	A
	2 教師としての専門性を高め、実践的指導力の向上を図る研修の充実	A	教職員の I C T 活用指導力をさらに充実させ、自由進度学習に取り組みながら、「対話」を重視した授業改革に取り組む。教科担任制を推進させる。	A	A
	3 学習指導要領の趣旨を踏まえ、創意ある教育課程の編成・実施・評価・改善	A	働き方改革を重視しつつ、カリキュラム・マネジメントを機能させながら、各教科や活動で育成すべき資質・能力が確実に身につく教育課程を編成する。	A	A
	4 一人一人のよさを引き出す学年・学級経営	A	重点目標及び育成すべき資質・能力に迫る経営に努める。授業や生徒指導等について細やかな打ち合わせを行い、各担任のよさが響きあう学年経営を推進する。	A	A
	5 全教職員による特別支援教育の充実	B	特別支援教育コーディネータを中心に、一人一人の教育的ニーズに応じた、具体的で実際の支援方法の充実を図る。	A	A
	6 教育効果を高める教育環境の充実	B	安心・安全な教育環境の保持、教材・教具の及び備品、I C T 機器の整備・管理を行い、指導効果を高める	A	A
	7 学びを支える地域・家庭・学校間との連携・協働の推進	A	重点や方針との関連性の高い教育活動や子どもの様子を積極的に発信し、学校の取組について、保護者や地域との共有を進める。	A	A
教育	8 心のふれあいを基盤とした道徳教育の充実	A	「自由と責任」「思いやり」「集団生活の充実」「生命の尊さ」を重点に、考え議論する道徳の授業を要とした、全教育活動を通じた道徳性の涵養を図る。	A	A

課程・学習指導	9 ふれあいや自己有用感を育む特別活動の推進	B	育成すべき資質・能力を明確にした活動・学校行事の実施と振り返りを行い、自主的・実践的な集団活動の充実を図る。	A	A
	10 地域を生かした特色ある教育課程の充実	A	各教科等で培った力を活用し、探究的、協働的に学習活動を進め、学んだことをアウトプットできるよう、内容の充実を図る。	A	A
	11 豊かな心を育てる文化活動の充実	A	読み聞かせ隊や図書整備隊、図書ボランティアとの連携を図りながら、本に親しむ、本で調べるなど、読書活動の充実を図り、豊かな感性を磨く。	A	A
	12 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着	A	補充的指導・学年内教科担任制や交流授業等の指導体制の工夫・改善を進める。	A	A
	13 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	A	「対話」により、全ての子どもが他者の考えとの価値交換を行い、活躍する授業改革の推進を図る。	A	A
生徒指導	14 心に響く、積極的な生徒指導の充実	B	「発達支持的生徒指導」を基盤として、自己指導能力を高める生徒指導の充実を図る。問題行動の事実関係を正確に把握し、指導の方向性や役割分担を全教職員間、関係機関で共通理解を図り、迅速な対応により、早期解決を図る。	A	A
	15 いじめを許さない学級・学校風土を醸成する生徒指導	A	いじめアンケートの活用及び日常の見取りを強化するため、学年部会、対策委員会の機能強化を図る取組を推進する。	A	A
健康安全教育	16 主体的に健康や安全に取り組む態度の育成	A	実践的な避難訓練、防犯や薬物乱用防止、交通安全教室等を実施し、子どもが危険を予知、回避し、「自分の命は自分で守る」ことができる力を育む。	A	A
	17 主体的に体力の向上に取り組む態度の育成	A	運動の楽しさを味わい、運動能力を高める体育授業、実態に即した体力向上プランの実施により、すすんで運動・健康の増進に努める態度を育成する。	A	A
小中一貫	18 小中一貫教育の推進	A	小中一貫教育に向けた小・小連携、小・中連携を積極的に推進し、中央中学校区の実態に合う取り組みを進める。	A	A

【評価項目の設定、達成状況改善及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】

- ・ 職員朝会を週1回にしていることは、働き方改革の観点からよい。ただし、職員同士の交流の活性化にも配慮するとよい。
- ・ 学習規律は、引き続き統一して指導するとよい。
- ・ 保護者の自治会館等への駐車はマナーが悪い人もいる。工夫が必要である。
- ・ 行事の質が高い。働き方改革の観点からも教職員同士で意見が言えるとよい。
- ・ PDCA が好循環でまわっている。
- ・ 教職員個々の業務量が増えている。工夫が必要である。
- ・ 引き続き特別な支援を要する児童に対する理解を保護者にも啓発していただきたい。

- ・ インクルーシブ教育を実践する学校であってほしい。
- ・ ホームページが充実している。メッセージと写真がすばらしい。
- ・ 保護者は、自身の子どもを大切しながらも、客観的な傾聴も身につけてほしい。

【評点】 A：よい B：おおむねよい C：ややよくない D：よくない